

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第9号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第9号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R3 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R3 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R3 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.4	27.4	2.0	29.2	31.3	2.1	22.4	24.7	2.3	90.3	40.5	45	16.3	14.2	87
	2	26.1	27.3	1.2	30.1	30.0	-0.1	23.0	25.6	2.6	83.2	49.0	59	20.3	2.9	14
	3	26.7			30.9			23.5			61.9			24.2		
	4	27.3			31.8			23.9			43.1			28.0		
	5	27.7			32.5			24.2			36.2			31.4		
	6	28.1			33.0			24.5			39.2			41.0		

○7月2半月の平均気温は、平年に比べて1°Cほど高く推移した。また、日照時間は寡照傾向となった。

◀福岡管区気象台の1か月天気予報（7月8日発表）（予報期間 7月10日から8月9日まで）

暖かい空気に覆われやすく、晴れる日もあるため、1週目の気温は平年並か高いですが、向こう1か月の気温は、ほぼ平年並でしょう。向こう1か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並でしょう。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：7月9日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 6/12移植 武雄市橋町	本年値	52.6	266	8.3	43.2	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年より高く、茎数は平年並み。 ※7~8葉身長が著しく伸長している 主幹出葉数は平年並み。 葉色は平年より濃い。
	平年値	44.7	259	8.4	41.4	
	平年比	118	103	-0.1	+1.8	
さがびより 6/19移植 武雄市橋町	本年値	34.3	179	7.1	41.3	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年より高く茎数は平年より多い。 ※6葉身長が著しく伸長している 主稈出葉数は平年より0.2葉多い。 葉色は平年より濃い。
	平年値	31.5	151	6.9	39.9	
	平年比	109	119	+0.2	+1.4	

※夢しずくおよびさがびよりの平年値はH21~R2の平均値。 耕種概要は稲作情報第8号参照

3. 管内の生育状況（7月12日時点）

- 1) 七タコシヒカリ：現在、乳熟期となっている。
本年は早いところで6月24日出穂し、出穂盛期は6月28日～30日となった。
なお、情報田の出穂期は6月30日となり、平年並みとなった。
- 2) 夢しずく（普通期）：現在、分けつ盛期である。
7月に入り天気は一転して曇天傾向で推移しているため、草丈が伸長し深水管理の圃場では軟弱徒長ぎみの生育である。
- 3) さがびより：現在、分けつ盛期である。
- 4) その他特記事項
 - ・6月下旬の高温少雨の影響を受けて、表層剥離による分けつ茎の発生抑制を確認した。
また、麦わら（特に小麦）及び野菜の残渣によるガス害も散見された。
 - ・用水を貯めたままの圃場においては、スクミリンゴガイによる食害や除草剤の薬害の発生を散見された。
 - ・移植後の気温が高めに推移したことから、雑草の発生が早い段階で確認されている。特にホタルイやコナギなどの問い合わせが増えた。

3. 今後の管理

1) コシヒカリ

(1) 水管理

- ・「コシヒカリ」は、乳熟期を迎えている。なお、積算温度による刈取り積算目安表は別紙参照。
- ・水管理は、根への酸素供給を図るためにも常時湛水するのではなく間断灌水（潤土管理）を行う。
ただし、玄米の品質低下を避けるため、土壌表面が白乾しないように、好天が続く場合は必ず走り水を行う。



強風時に土壌表面が白乾した圃場での
稲の障害事例。
強風による葉の裂傷や急激な蒸散により
籾が黒く変色している。
(過去の他地区での事例より)

(2) 病虫害防除

- ・「七タコシヒカリ」は県特別栽培農産物に応じた栽培を取組んでおり、農薬成分回数9成分を超えないような栽培管理が重要である。

①ウンカ類

- ・本年は、平年に比べ20日早い梅雨入りとなり、梅雨前線に伴い海外飛来性害虫であるウンカ類が

確認されている。(表1参照) また、当管内では、5月末から水稻の株元にセジロウンカの産卵痕を確認しており、7月9日に実施した25株はらい落とし調査結果は表1のとおりである。

今後の発生状況に留意するとともに、発生状況に応じて臨機防除が必要となる。

※臨機防除が必要な場合は、病害虫防除情報を追ってお知らせする(JA 営農情報として発信する)

《表1 管内におけるウンカ類の払い落とし調査結果》

調査日	セジロウンカ		トビロウンカ		ヒメビロウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
7月9日							
4月5日移植	32	5	5	1	30	7	コシヒカリ(白石町多田)※箱施薬剤無施用
6月12日移植	0	0	0	0	0	0	夢しずく情報田(武雄市橋町) ※ゼクサロン剤
6月19日移植	0	0	0	0	0	0	夢しずく(白石町新明) ※ゼクサロン剤(播種同時)
6月19日移植	0	0	0	0	0	0	さがびより情報田 ※ゼクサロン剤
6月19日移植	0	2	0	0	0	0	さがびより(武雄市橋町) ※ゼクサロン剤

※25株払落とし総数を計上している。

②斑点米カメムシ類

- 病害虫発生予察7月予報(6月30日付け佐賀県農業技術防除センター発表)では、斑点米カメムシ類の発生は「平年並」である。

乳熟期(穂先がちょっと傾いたころ:穂前期の約10日後)の時期には薬剤防除を実施する。

なお、七タコシヒカリは特別栽培認証制度に応じた栽培法を実施しているため、農薬散布にあたっては農薬成分回数9成分を超えないように注意する。

2) 山間早植え水稻(主に夢しずく)

- 水管理は間断灌水を実施する。今後、生育ステージ(品種によって異なる)は幼穂形成始期をむかえる。曇天の影響を受けて全般的に草丈は高く葉色は濃い。
- 生育ステージは平年並み。7月上中旬頃に幼穂形成期を迎えるため、表2を参照して穂肥を施用する。ただし、本年は山間早植え水稻において「いもち病」が確認されているので、発生状況等によっては穂肥は減ずる。(進展型病斑を確認した場合は、穂肥は控え臨機防除を行う)

《表2 夢しずくの穂肥診断指標(穂肥の資材は地域栽培暦を参照する)》

幼穂形成始期の草丈(cm)	葉色		施用時期		穂肥施用量(kg/10a)	
	群落	SPAD-502	出穂前日数	幼穂長	窒素成分量	BB602
73cm以下	3.0以下	34以下	22~20日前	1mm	3.0	18kg
	3.0~3.5	38以下	20~18日前	2mm	3.0	18kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.5~2.0	10~12kg
73~79cm	3.8以上	40以上	晩稔は止葉抽出終了まで		1.0以下	6kg
	3.0~3.5	34以下	20~18日前	2mm	1.5~2.0	10~12kg
	3.5~3.8	38~39	15~14日前	10~15mm	1.0	6kg
80cm以上	3.8以上	40以上	施用しない			
原則として施用しない						

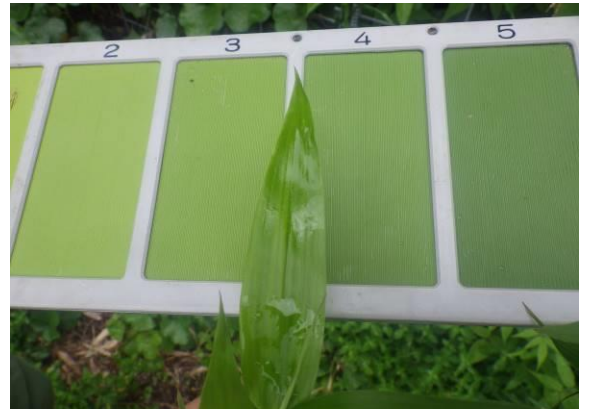
※草丈は幼穂の伸長程度より幼穂形成始期(幼穂長1mm)を基点に、前後1日当たり1cm増減する。

※止葉が抽出し終わった後は施用しない。

【穂肥診断の方法】

- ① 幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ② 葉色（群落・SPAD値）を測る。
- ③ 上記①②の測定値を診断指標にあてはめて
施用量を確認する。
- ④ 施用量が確認できたら、記載された施用時期
に穂肥を施用できるよう準備する。

※穂肥施用できるのは、葉色が「笹の葉色以下
(3.5以下)」になってからである。



葉色板がなくとも、山笹の葉色にならないと
穂肥施用はできない

3) 普通期水稻

(1) 「夢しずく」

- ・ 移植後の断続的な降雨により常時湛水した圃場ではガスの発生が目立っている。さらに前作の残さや、麦わらが多い水田では、今後ガス（湧き）と還元（酸素不足）が進むことが予想される。「ガスの発生が著しい場合」は、除草剤処理から7日経過したら、「ガス抜き」のために半日～1日程度の落水を行う。特に、足を踏み入れずに自然に気泡が出るようであれば直ちに落水する。（表3参照）

〈表3 ガス（湧き）発生程度及び対策〉

湧きの程度	様相とガス程度水稻への影響	水稻への影響	ガス対策（7月上旬以降）
稀	足を踏み込んでも気泡なし	なし	必要なし
少	足を踏み込むとわずかに気泡が見られる	なし	必要なし
中	足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	落水後に用水更新
多	足を踏み込むと盛んに気泡を発生	根張り不良	落水後に用水更新を繰り返し
甚	晴天時自然に気泡発生する（ぱちぱちと音が聞こえる。）水田歩くと著しく気泡発生。	根伸長阻害、黄化	中耕と用水更新を繰り返し 回復後には、間断灌水（本格的夜干）



手を田んぼに入ると、気泡（ガス）が激しく発生する

⇒ガスの障害により生育抑制や古い葉の葉先に褐色の斑点が発生する。

- ・移植後、気温は高く推移したことで雑草発生が早く、場合によっては除草剤の効果が十分発揮できていない圃場も確認されている。特に「ホタルイ」の発生を確認する。その場合、中後期除草剤の対応も視野に入れる（剤によっては収穫前日数に留意して使用する）
- ・移植後、高温少雨の影響を受けて表層剥離が著しく水管理が不十分な圃場では、初期分けつが確保できず茎数不足の圃場も散見されるが、中干し作業は、移植後35日～40日まで実施する。
中干しの草丈の目安は、「夢しずく」が45～55cm、「ヒノヒカリ」は40～50cmの間が目安である。（茎数の多少はあるが、この時期以降の分けつ茎は穂にならないため。）
いもち病が多発している圃場では、強い中干しは避けるようにする。

（参考）中干し作業の効果と時期

（1）中干しの効果

- 1) 無効分けつの発生防止→1茎の充実、茎を太く揃える
- 2) 下位節間の伸長防止 →稈長を長くしない、倒伏防止
- 3) 窒素の制限 →過剰繁茂防止、草型を整える
- 4) 有害物質の除去 →根の活力低下防止
- 5) 土壌に酸素供給 →根の健全化
- 6) 土壌透水性増加 →根の量の増加
- 7) 株支持力の増加 →倒伏防止
- 8) 圃場管理が容易 →田圃に入っても歩いてもきつくない

（2）中干しの実施時期の目安

→総葉数の7割～8割の葉が出た時の間、10葉期頃、田植後35日を中心に行う。

止葉までの葉数の69%～77%の葉が出た時期であり、有効分けつ決定期（株当たり小さい分けつまで20本）～穂首分化期（穂の基が茎の中で出来る時）である。

また、開始時期の目安は、移植時期によって異なるが、有効茎（1株あたり20本程度の分けつ）が確保でき、株が開張しておおむね草丈が35～50cmを目途に実施する。

（3）中干しの期間と程度（強弱）

中干し期間は、天候や土壌の種類、漏水の程度などによってちがってくるが、おおむね5～7日とする。

圃場の硬さの目安は軽く足跡が付く程度で、小さなヒビが入るくらいとする。

つまり「歩いて足跡が付くが抵抗なく歩ける硬さ」が理想である。

また、手のひらが縦にはいるようなヒビ（強い中干し）は、強い断根を伴い稲にとってダメージが大きくなる。

（2）「さがびより」・「ヒノヒカリ」

- ・水管理等は「夢しずく」を参照する。

（3）病虫害防除

- ・7月の病虫害予察情報（6月30日付け佐賀県農業技術防除センター発表）によると主要病虫害の発生量は以下のとおり。

《表4 7月の病虫害予察情報》

作物名	病虫害名	平年比	前年比
水稻 (早期)	穂いもち	やや多	多
	紋枯病	並	並
	斑点米カメムシ類	並	並

水稲 (普通期)	葉いもち	並	並
	トビイロウンカ	並	並
	セジロウンカ	並	並
	コブノメイガ	並	やや少

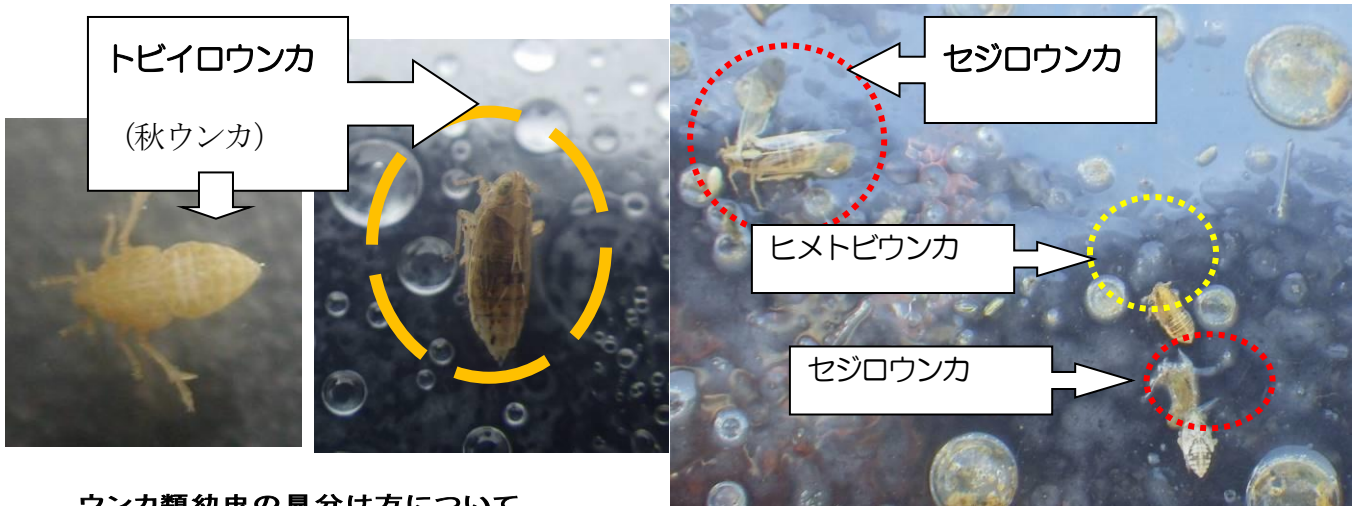
①いもち病

【普通期水稲】

- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・葉いもちの発生に注意して観察し、進展型病斑が認められれば早急に臨機防除を実施する。
その場合、オリブライト粒剤等を使用する（ただし農薬摘要に留意する）
- ・窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。
- ・BLASTAM 情報は別紙参照。BLASTAM（ブラスタム）は、いもち病菌の感染に適した条件が表れたかを判定するモデルである。ブラスタムで好適条件が現れた場合、約1週間後からいもち病の初発あるいは病斑数が急激に増加することが予測されるので注意する。

②ウンカ類

- ・セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガの誘殺状況については別紙参照。
また、最新データは、佐賀県農業技術防除センター及び長崎県病害虫防除所HPを参照する。
- ・今後の飛来状況や圃場の発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。ゼクサロン系箱施薬剤を使用している水稲であれば現時点での防除は必要ない。



ウンカ類幼虫の見分け方について




	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 : 真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 : 斜め後ろ

表5 海外飛来性害虫（トビイロウンカ・セジロウンカ）誘殺状況

佐賀県農業技術防除センターHP 参照

月	日	トビイロウンカ						セジロウンカ						コブメイガ						
		佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県			
		佐賀市 ネット トラップ	佐賀市 ライト トラップ	糟野市 ライト トラップ	藤原市 ライト トラップ	藤原市 ネット トラップA	藤原市 ネット トラップB	佐賀市 ネット トラップ	佐賀市 ライト トラップ	糟野市 ライト トラップ	藤原市 ライト トラップ	藤原市 ネット トラップA	藤原市 ネット トラップB	佐賀市 フェロモン トラップA	糟野市 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	伊万里市 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	白石町 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	武雄市 粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	藤原市 フェロモン トラップA	藤原市 フェロモン トラップB
5月	11日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	31日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	27日	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3日	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	1	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5日	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6日	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8日	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9日	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1)佐賀市ネットトラップとライトトラップ(予察灯)は、農業試験研究センターで調査。糟野市ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
 注2)コブメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
 ※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター環境研究部門病害虫発生予察室提供。



図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第2版、2021年7月14日作成)

1. 5月11日頃、7月3～4日頃(図では7月4日)、7月8～12日頃(図では7月9日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月14日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

令和3年産

七夕「コシヒカリ」収穫期適期積算表（アメダス観測地，白石）

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会作物部会
杵島農業改良普及センター

令和3年7月14日現在

月	日	平均気温		出穂期（月/日）						
		平年	R3	6/24	6/26	6/28	6/30	7/2	7/4	
6	24	24.0	24.1	出穂期						
	25	24.2	24.7	25						
	26	24.3	24.9	49.6	出穂期					
	27	24.4	25.7	75	26					
	28	24.6	25.4	101	51	出穂期				
	29	24.8	25.8	127	77	26				
	30	24.9	26.5	153	103	52	出穂期			
7	1	25.1	28.0	181	131	80	28			
	2	25.2	26.9	208	158	107	55	出穂期		
	3	25.4	25.5	233	184	133	80	26		
	4	25.5	28.5	262	212	161	109	54	出穂期	
	5	25.7	28.3	290	241	190	137	82	28	
	6	25.8	28.3	319	269	218	166	111	57	
	7	25.9	28.5	347	297	246	194	139	85	
	8	26.1	27.2	374	325	274	221	166	112	
	9	26.2	27.0	401	352	301	248	193	139	
	10	26.3	25.3	427	377	326	274	219	165	
	11	26.5	26.2	453	403	352	300	245	191	
	12	26.6	28.0	481	431	380	328	273	219	
	13	26.7	28.4	509	460	408	356	301	247	
	14	26.8		536	486	435	383	328	274	
	15	26.9		563	513	462	410	355	301	
	16	27.1		590	540	489	437	382	328	
	17	27.2		617	568	516	464	409	355	
	18	27.3		644	595	544	491	437	383	
	19	27.4		672	622	571	519	464	410	
	20	27.5		699	650	599	546	491	437	
	21	27.6		727	677	626	574	519	465	
	22	27.7		755	705	654	602	547	493	
	23	27.7		782	733	682	629	574	520	
	24	27.8		810	761	709	657	602	548	
	25	27.9		838	788	737	685	630	576	
	26	27.9		866	816	765	713	658	604	
	27	28.0		894	844	793	741	686	632	
	28	28.1		922	872	821	769	714	660	
	29	28.1		950	901	849	797	742	688	
	30	28.1		978	929	878	825	770	716	
	31	28.2		1,006	957	906	853	799	745	
8	1	28.2		1,035	985	934	882	827	773	
	2	28.2		1,063	1,013	962	910	855	801	
	3	28.3		1,091	1,042	990	938	883	829	
	4	28.3		1,119	1,070	1,019	966	912	858	
	5	28.3		1,148	1,098	1,047	995	940	886	
	6	28.3		1,176	1,126	1,075	1,023	968	914	
	7	28.3			1,155	1,104	1,051	996	942	
	8	28.2				1,132	1,080	1,025	971	
	9	28.2					1,108	1,053	999	
	10	28.2						1,081	1,027	
	11	28.1							1,055	
	12	28.1								

◎ コシヒカリ収穫適期の目安

● 積算気温による目安

最低 850℃

最高 930℃



<収穫のポイント>

積算表はあくまで目安です。

気温が高く推移すれば予想より早まり、
気温が低く推移すれば予想より遅くなります。

圃場での熟れぐあいを確認したうえで、
収穫日を決定します。

早期落水は充実不足による「ヤセ米」や、
「屑米」、「死米」が発生しやすく、品質低下
の原因となりますので、必ず間断灌水を实
施して、根の活力維持に努めてください。

コンバイン収穫では、麦などの異種穀粒
や異物が混入しないように清掃点検を行
いましょう。

日中の高温条件での収穫となり、籾水分
も高いので、収穫後はできるだけ速やかに
通風・乾燥を行きましょう。一時堆積中の
籾の穀温が高くなり、熱く感じられるときは
ヤケ米発生となりやすく危険です。



<収穫適期の目安>

◎ 穂軸の先端(穂先)から1~2cmが枯れ、穂元の青籾が5~7粒
残っている状態で、籾をツメで押しもつぶれなくなった時。

◎ 籾水分28%以下。

・収穫は、穀粒水分30%以下に低下してから始まります。籾水分27%~28%の頃が刈り取りの中心となり、**気温の高い早期作では水分の低下が早く、籾水分25%未満(積算気温で1,000度以上)になると、刈遅れによる品質低下が目立ってきます。**

・早刈りは、玄米の充実不足による「青未熟粒」や「死米」が発生しやすくなります。

「青未熟粒」が多いと食味が劣り、また収量も低下しますので、早刈りは避けましょう。

・遅刈りは、「胴割米」や「茶米」、「穂発芽粒」が発生しやすくなり、品質低下の原因となりますので刈遅れとならないように注意してください。
活き青米は5~10%程度入っている方が玄米の光沢が良く、外観品質も良くなります。

4. 台風・大雨対策

- ・台風対策は、水稻の生育ステージによって異なるが、本田移植後（活着期以降）は、強風による水稻の茎葉の水分収奪や損傷を防止するため、必ず深水管理を行う。

併せて、台風通過後は、新しい水と入れ替え、こまめな間断灌水や浅水管理を行って根の機能回復に努める。